

## 第2回広島県地域公共交通協議会議事録

- 1 日 時 令和4年9月5日（月） 10：00～11：30
- 2 場 所 ホテルメルパルク広島6階 安芸
- 3 出席委員 藤原会長、渡邊副会長、神田委員、力石委員、赤木委員、迫田委員、富田委員、田中委員、宮本委員、岡崎委員、小池委員、岡村委員、福岡（代理 金光）委員、吉田（代理 金光）委員、岡田委員、杉山委員
- 4 議 事 広島県における公共交通の現状と課題について

### 5 配付資料

資料 広島県における公共交通の現状と課題について

参考① 広島県地域公共交通協議会設置要綱

参考② 鉄道事業者と地域の協働による地域モビリティの刷新に関する検討会（提言概要）

参考③ アフターコロナに向けた地域交通の「リ・デザイン」有識者検討会（提言概要）

### 6 会議の内容（議事要旨）

（藤原会長あいさつ）

迫田委員、田中委員が新しく委員に就任。委員の変更に伴う設置要綱の変更を説明。

#### 広島県における公共交通の現状と課題について

事務局より資料の説明

（赤木委員）

- 資料の21ページや26ページ辺りに関連することとして、環境意識の高まりと書かれていたが、広島県の大手バス事業者13社の統計ではコロナの影響もあり、車齢10年を超えたバスが60%を超えている状況であり、環境に配慮した新しいバスが販売されているが導入が進んでいない。これは乗合バスも貸切バスも同様の状況。車両のEV化や車両更新についても対策をお願いしたい。
- 公共交通の利用促進という観点からも環境意識の向上だけではなく、具体的な対策をお願いしたい。

- 資料の 22 ページの危機事案への備えについて、代替輸送については、貸切のバス車両が重要な役割を果たしている。コロナの関係で広島県内でも貸切事業者が 7 社ほど撤退しており、これからさらに撤退が続く可能性がある。今後も貸切事業者への支援をお願いすると共に、公共交通に準じた扱いをしていただきたい。

#### (富田委員)

- 資料の 14 ページに、運送収入の推移が掲載されているが、タクシーは県全体でまとめるとコロナ前の 80% くらいまで回復している。
- タクシーは各地域によって営業区域が決まっていて地域内で完結することが多い。事業者から毎月集めている営業収入の実績を見ると、広島市内は夜の需要が落ちており、大きく収入が落ちている。一方で、各市町によって特色が違うのかもしれないが、中山間地域では、あまり需要が落ちていない事例もあり、2019 年と比較して 100% を超えている地域もある。単純に県内全域で収入が落ちているというわけではないと考えられる。市町から収入を補填していただいて、プラスマイナス 0 になっているのかもしれないが、このあたりについてももう少し分析が必要だと感じた。

#### (金光委員)

- 今後、目指すべき姿をどう整理するかにもよると思うが、現状における課題はそれぞれの地域で変わってくる。全体としては資料で提示された課題があると思うが、もう少し地域ごとの現状における課題についても、施策の方向性等を議論するうえで分析が必要であると感じた。

#### (事務局)

- バスの車両更新については、今年 6 月の補正で予算を組んでおり、支援をさせていただいている。
- 利用促進は非常に重要な課題だと思っているが、必ずしも市町の交通計画の中に利用促進が明記されている訳ではないため、引き続き、市町としっかり連携していきたい。
- タクシーについて、今までは市町単位に計画を作ってきたが、類型化することによって、もう少し市町の中も地域として分けて見ることができないかと考えている。
- 今後の目指す姿の議論にもなってくるが、いただいた意見を踏まえて、検討を進める。

#### (田中委員)

- 資料の 14 ページの図のとおり、地域鉄道の運送収入がコロナ前の水準になかなか戻らないので、鉄道会社は非常に苦勞している。
- 燃料の関係で軽油やガソリンの補助はあるが、鉄道会社の場合は電気で動く。電気も高騰していて、非常に厳しい状況であり、そちらも補助をお願いしたいと考えている。

**(宮本委員)**

- どこからどこへどのくらいの規模で人が移動しているのかをデータで見ることができれば、今後の施策・対策の議論につながるのではないかと考える。

**(岡村委員)**

- あくまで県内の移動量について整理しているとのことだが、隣県の岡山、山口などの生活圏域がある程度一体的になっているエリアの移動については考慮が必要なのではないか。
- 資料の 25、26 ページについて、私は「課題とは、あるべき姿と現状のギャップから問題が出てきてそれを解決するための方策が課題である」と捉えている。「課題」と整理されているが、資料の内容はあくまで現状から導き出される地域公共交通の将来的リスクではないかという印象を受けた。

**(事務局)**

- 鉄道協会からのご要望については、一部ではあるが、電気代についても支援することを始めている。
- 移動については、今後、OD データ等を活用して地域に落とし込んでいく際に、「どこからどこに人が移動しているか」ということを明らかにしようと思っている。
- 他県との境について、広島に入った、出ていったということはデータで把握している。
- 資料にある課題は現状分析で見えた課題であり、これから目指す姿を作ろうとしているので、進める中で新たな課題が見えてくると思っている。

**(藤原会長)**

- 今回のデータではどこから出てどこから来たかというのを追いかけることはできない。トータルとしてどこが増えてどこが減ったかというのはわかる。本来であれば 100 増えて 100 減ったら 0 になるが、これは全てプラス側にカウントしているので、100 増えて 100 減ったら 200 としてくれている。どこから来たかはわからないものになっている。

**(事務局)**

- 現在は流入流出のみのデータとなっているが、今後は全数で OD データを取得予定としている。秘匿処理もあり中山間地域ではどこまで取れるかというのはあるが、今後地域に落とし込んでいく際に検討していきたいと思っている。

**(金光委員)**

- 「目的地特化型」は、通勤渋滞時の CO<sub>2</sub> 対策、環境問題との関係性が強いという特徴があ

ると説明があった。しかし、例えば、「都市拠点型」も移動が集中することで渋滞が起きやすいという点において、CO<sub>2</sub>対策が重要な課題になる。類型化ごとの特徴の違いや分け方について、もう少し詳しく教えていただきたい。

**(事務局)**

- 都市部では公共交通が充実していて通勤・通学で利用している印象があり、工業団地になると、車での移動が多い印象である。「目的地特化型」は、ある程度移動を束ねて公共交通に乗ってもらう等の発想が出てくれば、CO<sub>2</sub>削減に結び付けられないかと考えている。そういうイメージで分けている。

**(渡邊副会長)**

- 例えば、宮島等、観光地をどのように扱うのか。類型化の中で観光地をどう考えていくかということは少し考慮する必要がある。

**(事務局)**

- 観光地への多くの移動量を、生活交通を支える形に転換できないかといった視点を持って今後の施策を検討していきたい。

**(藤原会長)**

- 観光は普通の生活交通とかなり違うのでどこからどこへ人が移動しているかを把握することが次の課題になる。

**(力石委員)**

- 課題というのは現状と理想のギャップから出てくるはずだという話があり、そのとおりで感じた。一方で、公共交通の理想というのは何なのかと聞かれたら、現時点では回答が難しいような気もする。
- 現在の制度設計の中では、現状を何とか維持するという志向であるが、資料の前半では「それでは持たない」という主張だったと理解している。
- 公共交通の理想が分からないので何をすべきなのか定まっていない現状がある。この協議会で理想の話をしていくのが次のステップなのかと全体の議論を通じて感じた。そこに着地点があると良い。

**(力石委員)**

- 現状認識でもう一つ難しいと思っているのが、見えていない需要が沢山あること。
- どのくらいの交通需要が潜在的に眠っているか、満たされていない需要がどのくらいあるか。見えていない需要があると、制度設計上も話がややこしくなる。

- 新しい制度設計を試行する過程では、まず理想の話をしておいて、その理想を共有した状態で実験をすることが必要。

**(藤原会長)**

- 現状だけの分析ではなく移動したいけど我慢している移動についても補足していかないといけないのではないか。
- 人口が少ないから「移動分散型」に分類されているが、移動したいけど我慢しているため移動が少ないということだとしたら、そのままが良いのかということを考えていかなければならない。

**(渡邊副会長)**

- これからは、高齢者の年金暮らしの方が増えるが、車保有は非常にお金がかかるため生活が苦しくなる可能性もある。何にお金をかけるかが重要になっていく。
- 生活は苦しいが、車を持っていないと生きていけない。しかし、年を取ったら運転ができなくなると、かなり状況が悪化していく。
- これからの暮らしぶり、生活の姿を想定しながら将来のことを考えていく必要がある。

**(事務局)**

- 少し補足させていただくと、ここまでの現状分析と課題の整理では、現状のデータを用いているので、潜在需要等は補足できていないのはご指摘のとおりである。そのため、今後の分析の1つとして、県民全体へのWEBアンケートによる意識調査やシナリオプランニング等を用いて、潜在的な需要を補完していければと考えている。

**(金光委員)**

- 今後の目指す姿の議論に繋がるかもしれないが、今回6つの類型を示されたということで、目指す姿は類型に沿った形で示されるようになるのか。また、この類型ごとにあるべき姿を今後議論していくというイメージになるのか。

**(事務局)**

- 類型ごとに目指す姿を議論していくことを想定している。ただし、類型だけで良いのか、もっと大きな目指す姿も必要になるのかもしれない。
- 類型を示すことができたので、類型ごとの目指す姿と、県全体の目指す姿を設定できないかと考えている。

**(金光委員)**

- 今年度は目指す姿をある程度固め、来年度以降は西部・北部・東部の3つのエリアの中

であるべき方向性を議論していこうという認識である。

- 3つのエリアで議論していく中で、各市や町が見直しを始めている交通計画との連携など、来年度議論していこうという話だったと認識している。そういった市町との連携も考慮すると、6つの類型ごとにあるべき姿を検討することは果たして適切なのかと疑問に思った。

**(事務局)**

- 各市町においても色々な類型が混合するのではないかと考えている。エリア毎に目指すべき姿を設定すべきなのかは検討していく必要があると感じている。

**(藤原会長)**

- 類型化したグループがいくつかあるけれども、それぞれ類型化したグループ毎に問題と対策を検討してしまったら、この会議の魅力が半分無くなる。
- それぞれの類型化がどのように相関しているかを見ないと解決にならない。
- 類型化は現状の問題を把握するための最小単位として分析したと思うが、類型化したものの関係性を考慮しないと適切な解決策は検討できない。
- その点について本日回答はできないはずなので、次回以降議論したい。

**(岡田委員)**

- 交通はエリア間の移動がメインであるため、類型化したエリアがどのように交通で結ばれているのかを具体的に交通の問題に落とし込むステップが必要だと感じた。

**(藤原会長)**

- 地域の間には階層がある。その階層の構造を紐解いていくと、さらにグルーピングすることができると思う。

**(神田委員)**

- 現在対応できていない移動需要に対する認識の仕方が重要になってくる。交通が充実していないがゆえにできていない活動はたくさんある。それらを抑圧需要と呼んでいる。
- 類型化ごとに抑圧されている需要はかなり変わるはずであり、抑圧需要を類型化ごとに詳しく見ていき、それをモビリティでどのように解放するかという視点が大事になってくる。
- 人口が減少する中で、移動量を増やすことは簡単ではない。移動量ではなく、活動量を増やさないといけない。

#### (小池委員)

- 高齢者にとって満たされていない需要というものはあると感じている。高齢者の暮らしを考える上では住み慣れた地域でいつまでも暮らせるような支援が重要になる。
- 買い物に行けない、通院に行けない、趣味のサークルに行くにしても移動の制約があるなど、満たされない需要への対応を、ボランティア輸送や福祉有償運送等と公共交通との住み分けや接続も念頭に置きながら検討する必要がある。

#### (岡崎委員)

- 前回の協議会で、量より質の議論が重要という話が出たため、通学で困っている可能性のある中山間地域の保護者や生徒に意見を伺ったが、「公共交通がなくなったら困る」という話にしかならなかった。
- 抑圧されている需要は子どもたちには無いのではないかと感じた。むしろ、学校が減ることが怖い。
- そこで、持続可能な公共交通について意見を伺ったところ、「乗る時間を揃える」という意見が挙がってきた。官民が一体となって学校やスーパーや病院の開く時間を揃えることができれば、公共交通を利用する人は増えるのではないかとのことだった。スクールバスを生活交通に使わせてもらうなどといった交通の維持の仕方もあるかと感じた。
- 抑圧需要がないというのは自分の意見だが、もしかしたら、子供たちの中には、クラブ活動に行きたくても公共交通がないので行けない子供もいるのかもしれない。今まで自分になかった視点だったため参考になった。

#### (杉山委員)

- 地域ごとに議論するだけでなく、類型ごとの相関関係を考慮する必要があると感じた。
- 対応できていない移動需要をどう考えるかも、人々の生活やまちづくりに踏み込んだ議論として重要になる。

#### (藤原会長)

- 本日は課題や類型化について自由に議論できた。
- この協議会では、当面の問題の解決でなく、持続可能な解決という色を全面に出していきたい。
- 全体を通して感想や要望があれば願います。

#### (岡村委員)

- 各市町の交通対策と連携して、地域の住民の快適な生活に資する施策を実装していく視点が重要だと感じた。
- また、財源の確保も重要な視点である。

**(迫田委員)**

- 資料を見せていただいて、島しょ部は高齢化も人口減少も厳しい状況が伺えた。
- 議論の中心はバスやタクシー、鉄道などの陸上交通で、同じ括りでは難しいかとも思うが海上交通についても議論をお願いしたい。

**(赤木委員)**

- 行政の交通財源はある程度決まっている。交通対策は決まった予算枠の中で施策に取り組んでいる。
- 現状の予算枠でやっていこうという意識を変えていただきたい。

**(藤原会長)**

- セクションを横断した考え方が必要。閉じた場所で検討しても閉じた解しかない。
- 協議会には多様な分野の専門家が集っているので、セクションを跨いだ議論をしていきたい。

**(事務局)**

- 次回の協議会は「広島県における地域公共交通の目指す姿」を議題として12月1日(木)に開催予定である。

以上